

大阪医科大学学報

第21号 平成6年7月



本部・図書館棟

教職員・学生食堂が業務開始

—新築の本部・図書館棟—

大学総合研究棟横に建築中であった本部・図書館棟が5月30日に竣工。まず管理部門（学長室、事務局長室、庶務課、経理課、会計課、用務員室）が移転し、6月27日から業務を開始した。

完成した同棟は茶系の炔器質タイルで壁面を構成し、見た目にやさしい、しゃれた感じの建物になっている。新しい事務室に入った職員たちは、楽しそうな半面何となく緊張した様子で仕事を始めている。

また、地階の教職員・学生食堂も7月1日から営業を開始した。旧食堂と異なり、広く清潔で全学から期待を集めての開業だっただけに、初日の、特に昼食タイムにはどっと利用者が殺到し、相当な待時間を費して“試食”した。メニューは和・洋・中華三種の日替りランチから一品もののそうざいまでかなり豊富で、中でもランチに人気集中し午後1時すぎには、売り切れの盛況ぶり。味はまずまずの評価を得ていたようだ。

食堂の馬場益弘（不二屋商事専務）さんは「従業員、設備ともに不なれで、初日は混雑を招きましたが、軌道にのればご迷惑はかけません。他大学の学食の経験を生かし、安くて美味しいメニューを提供するよう努力します」といっている。因みに、各料理にカロリー表示をしてあり、それも同食堂のアイデアとか。医科大の設備らしい趣好といえる。

教職員・学生食堂の営業は午前7時30分～午後8時まで（土曜日は午後5時まで）で、朝食＝午前



7時30分～午前9時、昼食＝午前11時～午後2時30分、夕食＝午後4時～午後8時。（休業日は本学の休日、日曜・祝日）

なお、図書館は夏休み期間中に整備を終え9月5日に開館する予定。

（オープンした食堂風景）

◆目

次◆

法人（役員の選任・学納金）……………	3	平成5年度主なる事業報告……………	16
人事（採用、退職、昇格・異動） 委嘱・解職、海外渡航）……………	9～11	平成6年度科学研究費補助金交付内定一覧 ……	17
教室紹介……………	11	海外出張記……………	19
表彰……………	12	医学の散歩道……………	22
平成5年度・収支決算……………	14	会議・行事予定……………	23
		附属病院……………	25

＝ 理事・評議員を選任 ＝

理事及び評議員が次のとおり選任されました。

理 事

平成6年6月30日開催の評議員会において、評議員の任期満了により欠員となった後任理事2名が7月1日付で下記のとおり選任されました。

寄附行為第7条第2項理事（評議員のうちから評議員会の議決をもって選任される者）

新 任

- ・藤本 正三（卒業生（寄附行為第14条第1項第2号評議員））

- ・平井 博（卒業生（寄附行為第14条第1項第2号評議員））

退 任

- ・有原 康次（6年3月31日付退任）
- ・小野村敏信（平成6年7月1日付退任）

評議員

平成6年6月1日付で変更寄附行為が施行されることにともない、平成6年5月31日開催の理事会において同寄附行為にもとづく評議員が、6月1日付で下記のとおり選任されました。

評 議 員 名 簿

第1号評議員（本学教職員）

美濃 眞 病院長
藤本 守 図書館長
鏡山 博行 学生部長
辻倉 忠男 事務局長
常川 治男 病院事務部長
古家 鞆弘 薬剤部長
勢川瑠美子 看護部長
小野村敏信 附属看護専門学校長
吉田 康久 教授
島田 眞久 教授

第2号評議員（本学卒業生）

藤本 正三 仁泉会理事長
原 亮多 仁泉会副理事長
由谷三千夫 仁泉会大阪府支部連合会会長
太田 元治 仁泉会大阪府支部連合会副会長
平井 博 大阪医大元助教授
家原 利兼 仁泉会監事
江原 英彦 仁泉会理事
町塚 道夫 仁泉会理事

藤高 道也 仁泉会理事
下山 誠 島根医大副学長

第3号評議員（学長）

松本 秀雄 学長

第4号評議員（理事長）

宮崎 重 理事長

第5号評議員（学識経験者）

岡島 邦雄 大阪医大教授
北村 八郎 大阪医大理事、同顧問
佐藤 博之 大阪医大監事、京阪電鉄（株）
常任監査役
武内 敦郎 大阪医大理事、同顧問、同名誉教授
谷村 和治 大阪医大顧問、弁護士
利倉 暁一 利昌工業（株）社長、
学校法人関西学院理事
中井 益代 大阪医大理事、同教授
西村 忠史 大阪医大診療教授
早石 修 大阪バイオサイエンス研究所所長
前大阪医大学長
松村 實 大阪医大参与

学 納 金 に つ い て

1. 本学学生納付金について

現在、本学医学部学生1人当たりの6年間の学生納付金（以下学納金という）の総額は2250万円で、昭和59年度以降今日まで11年間同額で据え置かれてきました。私立医科大学全体（29大学）では平成6年度入学者のそれは平均3017.4万円（旧13校平均は2673.2万円）であります。即ち、本学の学納金は29私立医科大学平均額の74.6%（旧13校平均額の84.2%）であります。

また、大学院の学納金は国立大学の半額程度であります。

別表1は、平成6年度医学部入学者の6年間の学生納付金総額を、各私立医科大学（医学部）の入試要項からしらべた表であります。本学よりも低額である大学は4校で、このうち2校はそれぞれ設立目的により地方公共団体、労働省関係機関から補助金を受けている大学であり、他の1校は総合大学の医学部で、他学部の収入から医学部の収支不足を補っております。

また、私立医科大学29校中25校が、学納金収入に計上されない寄附金、学債を入学時に募集しておりますが、本学はこれを行っておりません。

2. 本学の入学時学納金額について

本学の入学時学納金額（別表1の黒色部分）が他大学に比べ幾分多額であり、その為にマスコミなどにより大阪医大は学納金が最も高いと報道されることが時としてありました。学納金の多寡は入学時から卒業時までの6年間学納金総額をみないとわかりません。入学時学納金の額が高くても、本学の学生1人当たりの6年間の学納金総額は他学よりも低額であります。本学は入学時に教育充実費を全額徴収する制度であるために、入学年次だけを比較されてそのよ

うな誤解を受けていると思います。この入学時の負担を軽くするために、本学では教育充実費を分割納入する制度を設けており、毎年数名の利用者があります。

3. 学納金と本学収支状況について

本学の収入総額（帰属収入）に占める学納金の割合は、昭和59年度は、14.2%でありましたが、平成5年度決算では9.8%に低下しました。この間、学納金が据え置かれてきたのは医療収入の伸び及びその他の収入が増加し、これを補うことができたためであります。

昭和59年度の消費支出（人件費、諸経費等）を100としますと、平成5年度消費支出は、154.1に上昇しました。一昨年から教育研究・管理経費の増加率は医療収入の伸び率を上回り、年々収入と支出の差は逡減し、平成6年度予算は帰属収入よりも消費支出が超過する状況となりました。別表2は、平成元年度から6年度までの帰属収入と消費支出の推移を示した表であります。

帰属収入のすべてを消費支出（人件費・経費等）で消費しているのは、財政基盤は維持できません。必要な施設、設備取得の財源にも充当する必要があります。

4. 学納金の改訂について

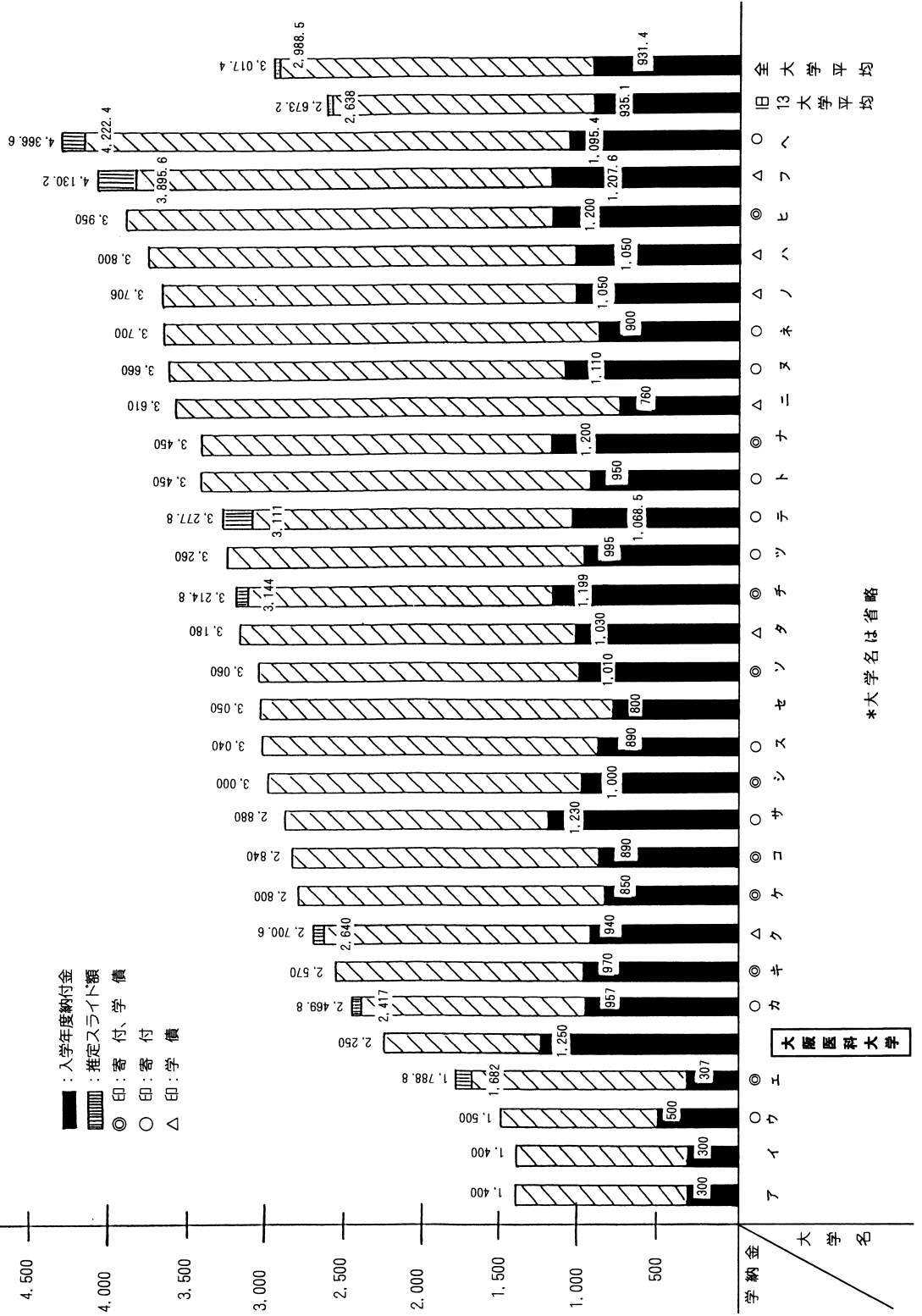
上記のような厳しい財政の収支状況下にありますので、尚一層経費全般について合理化に努める所存であります。今後の人件費増や教育研究条件の充実、維持向上のために、次年度以降の学納金改訂について検討を行っております。各位のご理解をお願いする次第であります。

（事務局長 辻倉 忠男）

単位：万円

平成6年度私立医科大学（医学部）学生納付金調

別表1

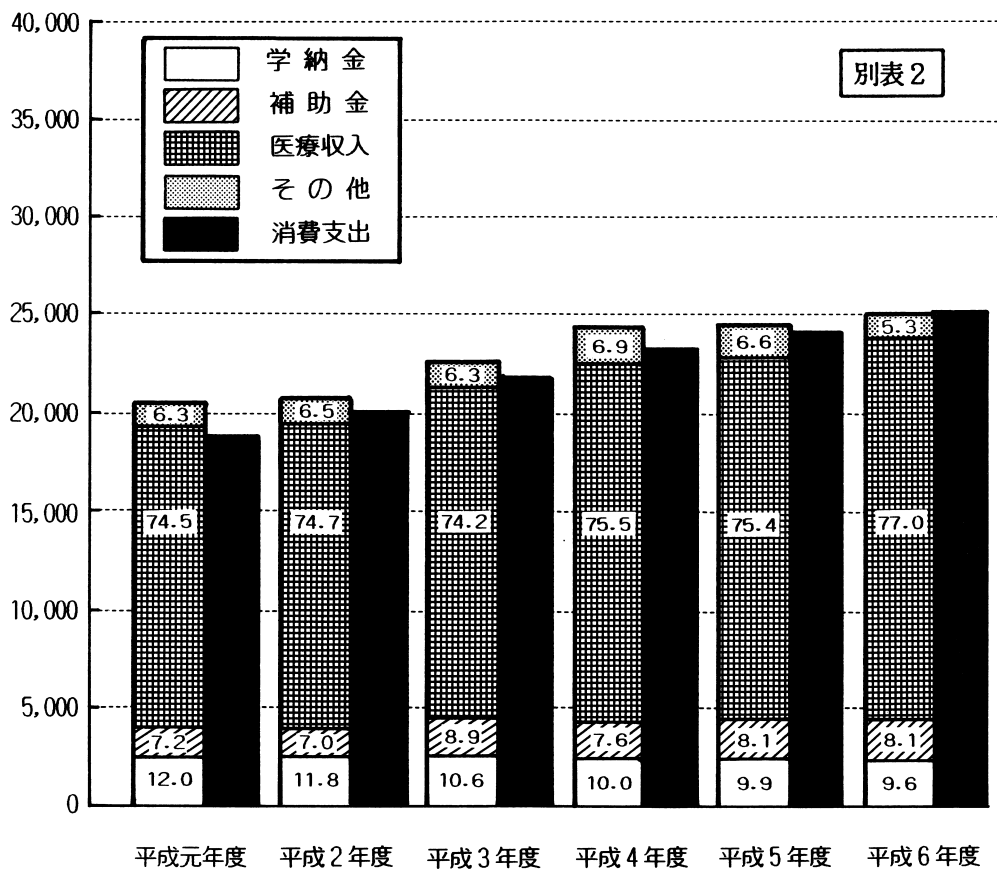


*大学名は省略

大阪医科大学

単位：百万円

帰属収入と消費支出の推移



*平成元年度から5年度までは決算額、平成6年度は予算額

*棒グラフ内の数字は、帰属収入（学納金、補助金、医療収入、その他の合計）を100とした場合の各科目の百分比



「平成5年度盛記念学術賞」受賞者決定

標記については、本年1月7日付で募集しましたところ、4名の応募者がありました。

その後、盛学術振興基金規程施行細則に基づき受賞者の選考を慎重に審議されました結果、下記の教員に盛記念学術賞を授与されることに決定しましたのでお知らせ致します。

平成5年度受賞者（50音順）

助教授（第1解剖学）赤尾幸博

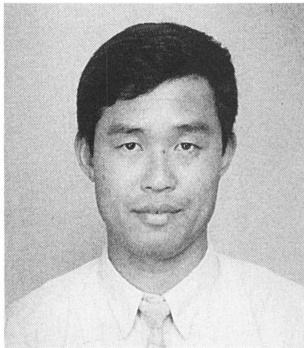
申請課題

「造血器腫瘍における染色体転座関連遺伝子 RCK と MLL/ALL-1 の単離と発癌分子機構の解明」

助教授（衛生学・公衆衛生学）河野公一

申請課題

「有害物質取り扱い作業者の健康管理に関する研究—特にフッ素化合物の生体影響と健康管理指標について—」



・盛学術記念賞助成金：1名につき100万円

（参 考）

盛学術振興基金規程ならびに同施行細則

盛学術振興基金規程

（設 置）

第1条 大阪医科大学（以下「本学」という）の学術振興を図ることを目的として本学に贈られた盛彌壽男氏からの寄附金により、盛学術振興基金（以下「盛基金」という）を設置する。

（目 的）

第2条 盛基金は、本学の学術振興を図るために、本学の教職員に対する助成金の交付を目的とする。

（事 業）

第3条 盛基金による助成は、当分の間、次のものに限る。

1. 若干名の優秀なる研究者に対し、《盛記念学術賞》を与える。

（運 営）

第4条 盛基金は、基金の果実をもって運営するものとする。

（運営委員会）

第5条 盛基金による助成の円滑な運営を図るために盛基金運営委員会（以下「運営委員会」という）を置く。

（運営委員会構成）

第6条 運営委員会は、学長を委員長とする5

名の委員により構成し、理事長が委嘱する。

(運営委員会の議事)

第7条 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

2. 委員会は、委員の全員の出席がなければその議事を行うことができない。

3. 委員会の議事は、委員の過半数で決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

4. 委員長が必要と認めるときは、委員以外のもを出席させ、その意見を求めることができる。

(運営委員の任期)

第8条 運営委員の任期は、2年とする。ただし再任は妨げない。

2. 委員に欠員が生じた場合は、速やかに補充する。その場合の任期は、前任者の残任期間とする。

(細則)

第9条 本規程の実施に関する細則は、別に定める。

(事務の処理)

第10条 盛基金の事務は、総務部庶務課が担当するものとする。

附則

この規程は、平成4年1月1日から施行する。

盛学術振興基金規程施行細則

(趣旨)

第1条 この細則は盛学術振興基金規程(以下「規程」という)第9条に基づき、盛基金による助成金(以下「助成金」という)の交付について実施の細目を定めるものとする。

(募集)

第2条 助成金の交付申請者の募集は、原則として毎年1回行うものとし、運営委員会がその期限を定めて公示するものとする。

(提出書類)

第3条 助成金の交付を受けようとするものは、盛記念学術賞交付申請書(様式1)を運営委員会に提出しなければならない。

(審査委員会)

第4条 運営委員会とは別に、審査委員会を設ける。

2. 審査委員会は、次の11名の委員をもって構成され、運営委員会委員長が委嘱する。

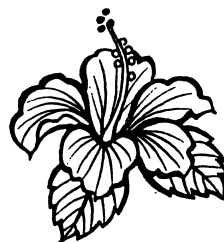
内科系3名、外科系3名、形態系2名、機能系2名、社会医学系1名。

(決定及び通知)

第5条 運営委員会は、審査委員会において選ばれた若干名の候補者について、助成金の交付を受ける研究者を決定し、その旨を本人に通知するものとする。

附則

この細則は平成4年1月1日から施行する。



人 事

〔採用〕

助 手	長谷川 稔 (内科学Ⅱ)	5.16
〃	三宅 宗典 (小児科学)	〃
〃	大場伸一郎 (形成外科学)	〃
〃	大宮 由香 (〃)	〃
〃	槇野 茂樹 (病 院)	6. 1
技 術 員	鈴木 典子 (病院薬剤部 薬 剤 課)	〃
助 手	井本 広済 (産婦人科学)	6.16
〃	寺井 義人 (〃)	〃
〃	山下 能毅 (〃)	〃
〃	藤原 正隆 (内科学Ⅰ)	7. 1
〃	細田 哲也 (麻 醉 科 学)	〃
〃	西垣 洋 (放射線医学)	〃
〃	中尾 圭一 (I C U)	〃
〃	清木 康雄 (周産期センター)	〃
技 術 員	谷口 敦子 (病院中央検査部)	〃
看 護 婦	原口 恵 (病院看護部)	〃
〃	村井 教子 (〃)	〃
看護事務員	落合 陽子 (〃)	〃
助 手	稲田 泰之 (神経精神医学)	7.16
〃	千福 貞博 (一般・消化器 外 科 学)	〃
技 術 員	赤坂 喜久 (病院輸血室)	〃
〃	小椋智津子 (〃)	〃
看護事務員	林 香織 (病院看護部)	〃

〔退職〕

助 手	水野 貴史 (形成外科学)	5.15
〃	養父孝乃介 (〃)	〃
〃	高原 得栄 (産婦人科学)	5.31
看 護 婦	辻 恵美 (病院看護部)	〃
教 授	兵頭 正義 (麻 醉 科 学)	6.14 (逝去)
助 手	杉野 正一 (内科学Ⅰ)	6.30
〃	森本 悦司 (麻 醉 科 学)	〃
〃	新武 慶興 (放射線医学)	〃
〃	奥田 弘賢 (産婦人科学)	〃
〃	時津 浩輔 (I C U)	〃

助 手	亀谷 英輝 (周産期センター)	6.30
事 務 員	梶山美恵子 (薬 理 学)	〃
調 理 主 任	黒石 花子 (病院事務部 栄養給食課)	〃
技 術 員	濱中 優子 (〃)	〃
〃	太田 裕子 (病院中央検査部)	〃
〃	岩田 理香 (病院輸血室)	〃
臨床指導者代理	山田由季子 (病院看護部)	〃
看 護 婦	浅田 文代 (〃)	〃
〃	豊辻ひとみ (〃)	〃
〃	松尾 美鈴 (〃)	〃
〃	田邊 一恵 (〃)	〃
〃	出口佐由美 (〃)	〃
〃	牧原 純子 (〃)	〃
〃	森田千代美 (〃)	〃
〃	大門あゆみ (〃)	〃
〃	金子 和子 (〃)	〃
〃	林 和美 (〃)	〃
看護事務員	井町 清美 (〃)	〃
〃	古川 浩美 (〃)	〃
助 手	上田ゆかり (神経精神医学)	7.15
〃	平賀 康彦 (麻 醉 科 学)	〃
〃	谷村 雅一 (一般・消化器 外 科 学)	〃
〃	後藤 真樹 (産婦人科学)	〃
技 術 員	本田 裕子 (病院輸血室)	〃
看 護 婦	青木まゆみ (病院看護部)	〃

〔昇格・異動〕

昇 格

胸部外科学 立花 秀一 (助 手) 6. 1
講 師

異 動

内科学Ⅰ 福田 彰 (病 院 手
助 手) 6. 1

〔委嘱・解嘱〕

委 嘱

倫理委員会委員長

教 授 溝井 泰彦 (法 医 学) 5.11

同上委員会副委員長

教授 高橋 宏明 (耳鼻咽喉科学) 5.11

客員教授

福西 亮 5.16

治験審査委員会委員

薬剤部長 古家 頼弘 (病院薬剤部) 5.16

機器共同利用センター長

教授 島田 眞久 (解剖学Ⅱ) 5.16

同上副センター長

教授 清水 章 (病態検査学) 5.25

学内講師

助手 田中 英高 (小児科学) 6.1

" 中務 真人 (解剖学Ⅰ) 7.1

" 森田智津子 (微生物学) "

跡地利用委員会委員

理事 武内 敦郎 6.16

"、 松本 秀雄 "

" 中井 益代 "

" 北村 八郎 "

" 小野村敏信 "

" 美濃 眞 "

参与 松村 實 "

同上委員会委員長

理事 武内 敦郎 "

健康管理医兼衛生管理者

助手 福田 彰 (内科学Ⅰ) 7.1

物理学担当教授選考委員会委員

教授 古谷 榮助 (化学) 7.6

教授 島田 眞久 (解剖学Ⅱ) 7.6

" 今井 雄介 (生理学Ⅰ) "

" 植林 勇 (放射線医学) "

" 田嶋 定夫 (形成外科学) "

助教授 東 克 (生物学) "

" 小寺 邦彦 (生理学Ⅱ) "

講師 浅井 一視 (生物学) "

" 小西 正良 (解剖学Ⅱ) "

助手 久保田次郎 (内科学Ⅲ) "

" 小川 竜介 (脳神経外科学) "

中央手術部長代行

教授 岡島 邦雄 (一般・消化器外科学) 7.6

解 嘱**機器共同利用センター長**

教授 美濃 眞 (小児科学) 5.15

寄附行為改正委員会委員長

理事 中井 益代 5.31

同上委員会委員

理事 田中 忠彌 5.31

" 北村 八郎 "

" 武内 敦郎 "

" 中井 益代 "

健康管理医兼衛生管理者

助手 黒川 義澄 (内科学Ⅰ) 6.30

〔海外渡航〕**出張**

東 郁郎 (眼科学教授)

アメリカ (ダラス他) 5.15～5.20

平田 一郎 (内科学Ⅱ講師)

アメリカ (ニューオーリンズ) 5.15～5.22

太田 富雄 (脳神経外科学教授)

ドイツ (ニュールンベルク) 5.17～5.25

黒田 健治 (神経精神医学講師)

江村 成就 (" 助手)

イタリア (フィレンツェ) 5.17～5.29

鏡山 博行 (医化学教授) 5.21～5.31

林 秀行 (" 助教授) 5.21～6.3

石井 誠志 (" 助手) 5.21～6.4

イタリア (カプリ島)

瀬本 喜啓 (整形外科学講師)

フランス (アルカション) 5.22～5.31

杉本 修 (産婦人科学教授)

ブラジル (サルバドール) 5.23～5.30

阿部 宗昭 (整形外科学助教授)

アメリカ (サンフランシスコ) 5.23～6.1

宮崎 瑞夫 (薬理学教授)

ベルギー (ルーベン) 5.25～6.1

青木 一郎 (物理学助教授)

ドイツ (ベルリン) 5.26～6.3

森田 眞照 (一般・消化器外科学学内講師)

アメリカ (ボストン) 5.30～6.9

梶本 宜永 (脳神経外科学助手)
 韓国 (釜山) 6.1 ~ 6.5
 田嶋 定夫 (形成外科学教授)
 韓国 (済州島) 6.1 ~ 6.5
 松井 律夫 (放射線医学講師)
 アメリカ (オーランド) 6.3 ~ 6.11
 西村 忠史 (小児科学診療教授)
 イタリア (ミラノ) 6.12 ~ 6.21
 内海 隆 (眼科学講師)
 荘野 忠朗 (" 助手)
 カナダ (バンクーバー) 6.16 ~ 6.28
 田嶋 定夫 (形成外科学教授)
 オーストリア (ウィーン) 6.19 ~ 6.27
 東 郁郎 (眼科学教授)
 カナダ (トロント他) 6.21 ~ 6.30
 佐々木 聖 (小児科学講師)
 スウェーデン (ストックホルム)
 6.23 ~ 7.7
 中島 正之 (眼科学講師) 6.24 ~ 7.2
 徳岡 覚 (" 助手) " ~ 7.3
 カナダ (トロント)

溝井 泰彦 (法医学教授)
 オーストラリア (ゴールドコースト他)
 6.25 ~ 7.5
 堺 俊明 (神経精神医学教授)
 米田 博 (" 助教授)
 野々村安啓 (" 助手)
 高畑 龍一 (" ")
 稲山 靖弘 (" ")
 アメリカ (ワシントンD.C) 6.26 ~ 7.5
 三宅 宗典 (小児科学助手)
 アメリカ (ロサンゼルス) 6.28 ~ 7.6
 牧本 一男 (耳鼻咽喉科学助教授)
 カナダ (ハリファックス) 7.2 ~ 7.9
 大槻 勝紀 (解剖学I教授) 7.12 ~ 7.18
 島田 眞久 (解剖学II ") " ~ "
 小出 哲也 (" 助手) " ~ "
 早崎 華 (" ") " ~ "
 伊藤 裕子 (解剖学I ") 7.13 ~ 7.16
 アメリカ (ハワイ)
 後藤 俊幸 (微生物学講師)
 フランス (パリ) 7.16 ~ 7.30

教室紹介

産科婦人科学教室

先端を行く臨床分析

教授 杉本 修

産科婦人科学教室は近年、多大の発展を遂げてきた。産科婦人科学の取り扱い範囲は非常に広く、婦人科内視鏡の応用と普及や、MEの発達に伴う胎児医学をはじめとして近年非常に進歩のめざましい学問の一つである。

当教室の研究テーマは以下のとおりである。

腫瘍学は植木實助教授以下、岡村信介講師、植田政嗣助手、後藤真樹助手、山田隆司助手、



岩井恵美助手らを中心として臨床的には各種婦人科悪性腫瘍の管理はもとより、子宮頸部異形成などに対する子宮温存手術 (YAGレーザー治療) などの分野では最先端をいっている。同

時に基礎的な分野でも各種婦人科悪性腫瘍の細胞株を樹立し、多くの学会発表を精力的に行うと同時に臨床へのフィードバックもおこなっている。

不妊症に関しては、奥田喜代司講師、奥田弘賢助手らを中心に腹腔鏡を活用し、単に検査の一つとしてではなく腹腔鏡直視下手術も積極的に施行している。当科不妊クリニックは関西で他大学にさきがけて体外受精を成功させたことは有名であり、現在は顕微受精もいち早く導入して成果を上げている。基礎的にも婦人科各種ホルモンの遺伝子領域における研究をテーマに、数少ない医局員の中から現在2名の学外留学生を派遣している。

産科・周産期領域では、妊娠中毒症や多胎妊娠をはじめとするハイリスク妊娠などに関して坪倉省吾助手や亀谷英輝助手らを中心に管理され、更に習慣流産に対する免疫療法による成果も着実に上がってきている。

また、近年産婦人科領域において注目されてきた更年期医学・心身医学の分野においても、後山尚久講師を中心に活発な臨床的・基礎的研究がすすめられている。

当教室におけるこれらの分野は勿論各々独立したのではなく、例えば子宮内膜症による不妊より妊娠に至った後にその管理を行って分娩にいたるように、それぞれ連携して個々の患者さんに一貫した治療をおこなうシステムとなっているのが特徴である。

また、多くの国際学会や国内学会発表のみならず、近隣地区の先生方とは救急症例の診断や細かな臨床経過を検討し、意見の交換や討論を行う研究会を年2回行って交流を深めている。

最近の全国的な傾向にもれず、産婦人科を志望する若い医師が減少して医局員の不足しているのが現在の教室の一番の悩みである。しかし、このような状態において「数多くの可能性に挑戦し、ひとつひとつ経験を大切に努力せよ」という言葉をモットーとし、基礎医学の教室とも連携を保つなど、教室員一同臨床・研究・教育に努力をかさねている。

表

彰



平成6年度永年(20年)勤続者表彰

平成6年度の永年(20年)勤続者表彰式が、6月2日(木)午前10時より、総合研究棟12階第1会議室に於いて、43名(欠席1名)の教職員の方々をはじめ理事長、学長、病院長、事務局長他関係者の出席のもと、執り行われました。本年度の表彰者は以下のとおりです。

青木 満子(病院事務部用度課・事務員)
浅尾エミ子(病院看護部・保母)
石川理津子(病院看護部・看護婦)
井関 隆(病院事務部医事課・課長補佐)
稲葉 護(病院事務部医事課・課長)
氏原 春美(病院看護部・看護事務員)
大塚 映子(病院看護部・准看護婦)
岡田 恵子(中央検査部・主任)
荻野 安宏(病理学Ⅰ・主任)
小野 美鈴(リハビリテーションセンター・主任)
加藤 初美(総務部庶務課・電話交換手)
喜多 哲子(病院事務部医事課・事務員)
久保 克己(総務部庶務課・課長補佐)
倉田 江(病院看護部・看護事務員)
栗生 洋子(病院事務部用度課・事務員)
小林 詩子(病院事務部医事課・主任)
佐々木孝一(病院看護部・看護師)
下川 要(病理学Ⅱ・主任)
下山 政江(病院看護部・看護補助員)
瀬戸口千鶴子(総務部庶務課・事務員)
高木有巳子(病院事務部医事課・事務員)
竹内 淑恵(中央検査部・主任)

竹田 喜信（内科学Ⅱ・講師）
田中 悦子（病院事務部医事課・事務員）
田中 弘子（病院放射線科・事務員）
田村 悦雄（病院事務部医事課・課長補佐）
段野 利衛（総務部庶務課・主任）
常深 笑子（病院看護部・看護補助員）
友永 孝則（総務部庶務課・課長補佐）
中川 秀子（病院事務部用度課・事務員）
中桐 和子（病院看護部・准看護婦）
永井 利昭（機器共同利用センター・技師長補佐）
中村喜代美（病院事務部医事課・事務員）
中村 節也（病院事務部施設課・課長補佐）
西村 季子（病院看護部・看護事務員）
平野 清美（病院看護部・看護事務員）
弘島 年江（病院事務部栄養給食課・用務員）
藤原 良子（病院看護部・准看護婦）
古川 京子（病院事務部栄養給食課・用務員）
前田 静恵（病院事務部栄養給食課・主任）
森山寿迦子（病院看護部・看護婦長）
山口 君子（病院事務部医事課・事務員）
横山 幸子（病院看護部・看護婦主任）
吉田 秀世（生理学Ⅰ・助手）

（50音順）

永年勤続20年の表彰を受けて

機器共同利用センター

技師長補佐 永井 利昭

所属部署は昨年4月より中央研究室から機器共同利用センターに名称変更になりましたので、まだ馴染みがないかもしれません。私は、総合研究棟に移転するまでは通称化研と呼ばれていた中央研究館に16年間居たことになります。

就職した当時の印象は構内には多くの木々があり、また中央研究館の周りには以前の職場にも植えられていたメタセコイヤの大木があり同じ様な雰囲気におぼえられました。本館には時計台があり、屋上の凸凹が中世のお城のようでした。

中央研究室は1階と地下にあり、1階は電頭、分析機器類が設置されており、管理も行き届き古い施設にしては良い環境でしたが私の仕事場（写真室）のある地下は湿度が高く梅雨時にな

ると廊下はいつも濡れていて、カビが生えたこともありました。

現在、大学は図書館も完成し一部を除き新しい施設になり、設備・機器類は格段に充実して私達も快適に仕事をしています。

毎年、新しい研究機器が導入され学習に大変ですが、生来の好奇心と doing 精神にて今後とも頑張っていきたいと思っています。

病院看護部看護婦長 森山 寿迦子

この度、勤続20年の表彰を受け、20年も経たことを意識していなかっただけに、おどろきと共に、大過なく無事務めさせて頂いたことを、心から感謝しております。出産のため看護の仕事をあきらめた時期もありましたが、友人から子供の小さい時から働くべきだと激励され、パートででも働きはじめたのが、大阪医科大学附属病院にお世話になった始まりです。まだ看護婦としては未熟な私でしたが、生き甲斐につながる看護の仕事は、ここから始まり、今日に至っています。夢中で仕事ができ多くの学びを得たのは、家族の協力があつたことは勿論ですが、それより何よりも、どのような時にも安心して働き続けられるようその時々、看護部長をはじめ病院当局の柔軟な配慮を頂いたことが大きかったと思います。病院の方々にお世話になった子供達も成人し、大阪医大発展の歴史と共に、私の家族の歴史があり、今こうして誇りをもって働いています。大阪医大の益々の発展を願い一層努力したいと考えています。

第12回日本理学療法士協会協会賞受賞

5月27日（金）青森市文化会館においてリハビリテーションセンター技師長、小田省三氏がその功勞に対し標記の表彰を受けられました。

平成5年度決算について

平成5年度収支決算は、本年5月28日開催の理事会において確定され、5月31日評議員会に報告了承されました。

<決算の概要>

平成5年度予算においては、本部・図書館棟工事を始め多岐にわたる施設設備整備のための支出増と医療収入の増加を計上しました。

本部・図書館棟建設工事は順調に進捗し、諸施設設備の整備は予算額内の決算となりました（事業内容は平成5年度主なる事業報告16頁参照）

医療収入は予算に対し約3億円減少し前年度実績の0.8%の微増となりました。

他の収入科目で増収がありましたが諸経費も増加し帰属収入から消費支出を差し引いた基本金組み入れ前の収支差額は約6億円となり平成4年度決算時に比べ施設設備取得に必要な財源が低額となりました。

消費支出決算について主な項目を予算との対比で述べます。

<主な収入状況>

『学生生徒納付金』は、教育充実費の分割納入者の減少等により、51,760千円の増収ですが、前年度決算額とはほぼ同額です。

『医療収入』は、予算に対し外来収入が236,199千円の増収となりますが、入院収入が516,701千円の減少となり、予算額に対し医療収入全体では295,649千円の収入減となりました。

『補助金』は、経常費補助金が、351,192千円の増加となりました。学納金収入に対する教育研究

費の支出割合が増加したことによる、補助金算定基準のメリット配分加算によります。

『その他』、奨学寄付金、受託事業収入、駐車場利用料収入の増加の他、高槻市の道路整備による病院前道路敷地の売却収入があります。

<主な支出の状況>

『人件費』は9,836千円減とほぼ予算どおりの執行状況となりました。

前年度の決算比較では484,081千円増、比率では4.6%増となっております。なお、帰属収入に占める人件費の割合は44.6%となり昨年度と比べて1.6%増となりました。

『教育研究経費』は、医療材料費の伸びが著しく、医療診療収入に対する医療材料費の比率は44.18%となり、予算と比べて1.43%増となっております。近年この比率は増加傾向にあります。

『管理経費』は、下水道料の値上げ、阪急高架下駐車場賃借費、業務委託費等による支出が増加しました。

<今後の課題>

平成5年度決算において医療収入の伸び率が予算を下回りましたこと等により帰属収入の前年度決算比は1.03%増にとどまり、一方消費支出の増加率は3.07%増加しました。帰属収入と消費支出の収支差額は、収入の2.5%となり、経営安定に必要とされる5%以上の目標に達しませんでした。今後の財政基盤の安定のため予算の効率的運用と経費節減に各位のご協力をお願いします。

(財務部長 池田 良正)

平成5年度・収支決算

資金収支決算

(単位：千円)

収 入 の 部				支 出 の 部			
科 目	平成5年度 決算額	平成5年度 予算額	増・減(△)	科 目	平成5年度 決算額	平成5年度 予算額	増・減(△)
学生生徒等納付金収入	2,430,858	2,379,098	51,760	人件費支出	10,578,164	10,656,222	△ 78,058
手数料収入	64,434	67,275	△ 2,841	教育研究経費支出	10,579,966	10,453,998	125,968
医療収入	18,447,434	18,743,083	△ 295,649	管理経費支出	938,555	873,563	64,992
寄付金収入	265,632	180,000	85,632	借入金等利息支出	177,952	188,025	△ 10,073
補助金収入	1,975,990	1,626,018	349,972	借入金等返済支出	1,321,723	1,293,923	27,800
資産運用収入	630,843	572,095	58,748	施設関係支出	1,394,685	2,062,655	△ 667,970
資産売却収入	76,980	0	76,980	設備関係支出	836,445	829,427	7,018
事業収入	278,916	215,462	63,454	資産運用支出	279,266	288,559	△ 9,293
雑収入	287,585	191,044	96,541	その他の支出	3,514,991	2,750,957	764,034
借入金等収入	1,639,600	1,639,600	0	予備費		300,000	△ 300,000
前受金収入	1,273,422	1,287,280	△ 13,858	資金支出調整勘定	△ 2,227,055	△ 2,520,413	293,358
その他収入	3,842,741	4,211,265	△ 368,524	次年度繰越支払資金	5,496,813	4,913,868	582,945
資金収入調整勘定	△ 4,561,646	△ 4,620,200	58,554				
前年度繰越支払資金	6,238,716	5,598,764	639,952				
収入の部合計	32,891,505	32,090,784	800,721	支出の部合計	32,891,505	32,090,784	800,721

消費収支決算

(単位：千円)

消 費 収 入 の 部				消 費 支 出 の 部			
科 目	平成5年度 決算額	平成5年度 予算額	増・減(△)	科 目	平成5年度 決算額	平成5年度 予算額	増・減(△)
学生生徒等納付金	2,430,858	2,379,098	51,760	人件費	10,915,806	10,925,642	△ 9,836
手数料	64,434	67,275	△ 2,841	教育研究経費	11,734,026	11,630,851	103,175
医療収入	18,447,434	18,743,083	△ 295,649	管理経費	1,014,285	947,472	66,813
寄付金	288,194	237,900	50,294	借入金等利息	177,952	188,025	△ 10,073
補助金	1,975,990	1,626,018	349,972	資産処分差額	21,561	7,850	13,711
資産運用収入	630,843	572,095	58,748	徴収不能額	8,305	3,000	5,305
資産売却差額	76,748	0	76,748	予備費		300,000	△ 300,000
事業収入	278,916	215,462	63,454	消費支出の部合計	23,871,935	24,002,840	△ 130,905
雑収入	287,585	191,044	96,541				
帰属収入合計	24,481,002	24,031,975	449,027				
基本金組入額合計	△ 1,893,898	△ 2,654,985	761,087				
消費収入の部合計	22,587,104	21,376,990	1,210,114	当年度消費支出超過額	1,284,831	2,625,850	

注：資金収支・消費収支両予算に共通する科目で決算額に差異のある科目については下記の理由による。

- 「寄付金」には、資金収支決算上の寄付金のほかに、消費収支決算では現物寄付金が計上されている。
- 「人件費」には、支払給与のほかに、資金収支決算では退職金支出額が計上されるのに対し、消費収支決算では退職給与引当金繰入額が計上されている。
- 「教育研究経費」「管理経費」には、資金収支決算上の支払経費のほかに、消費収支決算ではそれぞれに減価償却額が計上されている。

平成5年度主なる事業報告

平成5年度主なる事業は、当初の計画どおり実施された。その事業内容は次の通りである。

A) 大学施設増改築第二期工事（本部・図書館棟）

標記工事は、平成5年4月12日着工し、平成6年5月30日完工した。

B) 研究診療設備拡充事業

1. 生体試料質量分析システム 1式

標記装置は、平成5年度文部省私立学校施設整備費補助金（私立大学・大学院等教育研究装置施設整備費）を受け、平成6年3月5日機器共同利用センターに設置した。

2. 分子設計支援システム 1式

標記設備は、平成5年度文部省私立大学研究設備整備費等補助金（私立大学情報処理関係設備整備費）を受け、平成6年3月5日医学情報処理センターに設置した。

3. 高周波温熱治療装置1式を、平成5年6月30日病院放射線科外来に設置した。

4. X線TVシステム装置1式を、平成5年7月30日病院放射線科外来に設置した。

5. 乳房X線撮影装置1式を、平成5年10月29日病院放射線科外来に設置した。

6. 診断用X線泌尿器装置1式を、平成5年7月30日病院泌尿器科外来に設置した。

7. レーザー手術装置1式を、平成5年6月30日病院中央手術室に設置した。

8. 血清自動測定装置1式を、平成5年7月30日病院中央検査部に設置した。

9. 長時間心電図解析装置1式を、平成5年6月30日病院中央検査部に設置した。

10. アルゴン・ダイレーザー光凝固装置1式は、平成5年5月20日リース契約（5年）を締結し、病院眼科外来に設置した。

C) 教育実習用機器整備事業

シルコーン含浸装置の他実習用機器39点を、講義実習棟他に設置した。

D) 施設改修整備事業

1. 進学課程（物理学・化学・生物学）教室空調設備工事（平成5年8月30日完工）

2. 実験動物センター改修工事（平成5年9月30日完工）

3. 附属病院中央監視盤改修工事

標記工事は、平成5年10月20日着工し、計画どおりの進捗状況で平成6年10月完工の予定。

4. 看護婦寮（愛泉寮・清泉寮）排水市下水道管放流工事

1) 愛泉寮排水市下水道管放流工事（平成5年10月31日完工）

2) 清泉寮排水市下水道管放流工事（平成5年8月30日完工）

5. 構内駐車場周辺整備工事（平成5年4月30日完工）

6. 駐車場管制システム整備費（平成5年4月1日リース契約（5年）を締結）

7. 附属病院2号館冷温水配管改修工事（平成5年11月20日完工）

8. 看護婦寮（愛泉寮）改修工事（平成6年1月31日完工）

E) 図書館整備事業

1. 図書館業務処理用電算機1式（平成5年4月20日リース契約（5年）を締結）

2. 図書館蔵書整備（平成5年12月28日完了）

平成6年度 科学研究費補助金交付内定一覧

(単位千円)

研究種目	研 究 課 題	所 属 ・ 職 名	氏 名	交 付 内 定 額
一般(A)	低温乳酸リンゲル液灌流による選択的脳冷却の実験的研究	脳 神 経 外 科 学 教 授	太田 富雄	3,200
一般(B)	アミノ基転移酵素の基質認識と活性発現機構の理解をめざして	医 化 学 教 授	鏡山 博行	1,000
〃	拡張型心筋症のウイルス病因にかんする研究 —In situ PCR 診断法を用いて—	第 3 内 科 学 教 授	河村慧四郎	700
〃	色素性乾皮症の神経症状と分子遺伝学的異常	小 児 科 学 講 師	三牧 孝至	1,400
〃	脳室腹腔短絡術時の流量調節バルブに関する実験的および臨床的研究	脳 神 経 外 科 学 講 師	三宅 裕治	6,800
一般(C)	凝固13因子と PGM 1 酵素遺伝子の多型生成機構の解析	法 助 医 学 教 授	鈴木 広一	500
〃	単離大腸粘液細胞培養系を用いた粘液生成の生理的役割とその病態に関する検討	第 2 内 科 学 助 手	島本 史夫	800
〃	小児膠原病および血管炎症候群におけるフリーラジカルの関与についての検討	小 児 科 学 講 師	北川 真	900
〃	肺癌診断におけるコンピューテッド・ラジオグラフィーの有用性の研究	放 射 線 医 学 講 師	清水 雅史	600
〃	肝阻血、敗血症による肝障害発生に関する研究	一般消化器外科 講 師	磯崎 博司	300
〃	腰部椎間板ヘルニアに対するレーザー治療；椎間板髄核蒸散法の基礎及び臨床研究	整 形 外 科 学 教 授	小野村敏信	500
〃	脊椎変形の病因と治療法に関する実験的研究	整 形 外 科 学 助 手	谷田 泰孝	800
〃	飼料の硬度がラット顎骨の成長発育におよぼす影響に関する実験的研究	口 腔 外 科 学 教 授	島原 政司	400
〃	PI アンカー型補体制御蛋白の癌化に伴う欠失の機序についての研究	病 態 検 査 学 助 手	畑中 道代	500
〃	心筋症剖検心における細胞外マトリックスに関する形態学的研究	第 2 病 理 学 講 師	岡田 仁克	1,900
〃	Ca チャンネルを有する各種培養神経細胞に対するALS血清 IgG の細胞傷害性	第 1 内 科 学 助 手	木村 文治	1,100
〃	母乳中β-カロチンの栄養生理学的意義に関する研究	小 児 科 学 教 授	美濃 眞	1,600
〃	新生児慢性疾患の発症における活性酸素の関与について	小 児 科 学 助 手	荻原 享	1,700
〃	APOC-II 遺伝子と晩期発症型アルツハイマー病との相関研究	神 経 精 神 医 学 助 手	野々村安啓	700

研究種目	研究課題	所属・職名	氏名	交付内定額
一般(C)	双極性感情障害における連鎖研究	神経精神医学 助	稲山 靖弘	700
〃	造血器腫瘍における転座関連遺伝子の発癌への関与	第1解剖学 助 教 授	赤尾 幸博	1,500
〃	女性生殖器におけるアポトーシスbc1-2蛋白とホルモンリセプターについて	第1解剖学 教 授	大槻 勝紀	1,300
〃	芳香族アミノ酸アミノ基転移酵素の基質認識機構	医 化 学 講 師	林 秀行	800
一般(C) 萌芽的研究	活性酵素誘導性腸上皮イオン分泌における細胞内シグナル伝達機構に関する研究	小 児 科 学 学 内 講 師	玉井 浩	500
〃	C型肝炎患者血清の試験管内補体活性化とクリオグロブリン形成の機構に関する研究	病 態 検 査 学 教 授	清水 章	1,000
奨励(A)	中新世ヒト上科霊長類における股関節構造の機能形態学的解析	第1解剖学 助 手	中務 真人	900
〃	平滑筋腫瘍における APC 及び P53 遺伝子の変異について	第2病理学 助 手	伊藤 裕啓	900
〃	てんかんの発作間歇期における行動変化の多面的研究	神経精神医学 講 師	岡村 武彦	500
〃	精神分裂病候補遺伝子の分子生物学的研究	神経精神医学 講 師	石田 徹	900
〃	In situ hybridization 法による抗精神病薬の脳生G蛋白の発現	神経精神医学 助 手	高畑 龍一	700
〃	灌流システムによる血小板由来生理活性物質の薬理作用の検討	脳神経外科学 助 手	小川 竜介	900
〃	最適な流量特性をもつ脳室腹腔シャントシステムの確立	脳神経外科学 助 手	梶本 宜永	900
〃	Ebselen による脳動脈の反応性の変化について	脳神経外科学 助 手	田村 陽史	900
〃	プロスタグランジンによる allodynia と hyperalgesia に関する研究	麻 酔 科 学 助 手	南 敏明	1,000
〃	芳香族 L-アミノ酸デカルボキシラーゼの構造と機能の解析	生 化 学 領 域 助 手	水口 博之	1,000
〃	細胞認識分子 BIG-1/BIG-2/F3/TAG-1 の神経回路網形成における役割	生 化 学 領 域 講 師	吉原 良浩	1,000
奨励(A) 萌芽的研究	下垂体ホルモンの分泌過剰およびその抑制状態における分泌顆粒成分の変化	第2病理学 講 師	前田 環	800
合 計	37件			41,600

〔備考〕平成6年度同補助金文部省内定件数は39件（総額4,330万円）であったが、該当者の内2名（一般研究(C)1件・奨励研究(A)1件）が退職しているため上記の件数で交付申請を行う。

海外出張記

中華医学会江西分会第4回 放射学会参加

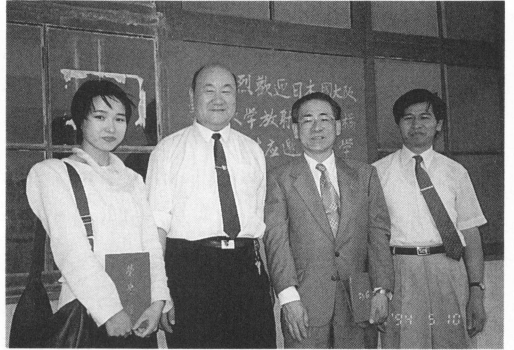
放射線医学教室助手 平石 久美子

熱烈歓迎、議論は白熱 混雑とのどかさ、^{いんたん}鷹潭市

「植林先生！平石先生！」上海空港へ降り立った私達を大きく手を振って出迎えて下さったのは、なつかしい龔先生の笑顔であった。龔先生は1992年5月より1年間、当放射線医学教室に紹聘外国人学者として在籍され、その間MRIを主に研究され、今回の私達の訪中の橋渡しとなられた方である。

先生の所属する江西医学院は、江西省南昌市にあり、上海までは何と汽車で15時間、1日1便のため、前日から待っていて下さったという。全く初めての中国で、「好日」「謝謝」程度しか解さない私達にとって、どれほどありがたく力強いことであつたらう。当初の予定では私達も15時間の汽車に揺られて……の筈であつたが、旅疲れを心配されて、わずか1時間の空路に変更となった。聞くところによると、片道の航空運賃は、平均月収とはほぼ同等というから非常に高価なものである。

南昌市は江西省の省都で、人民解放軍創設の地として知られている。江西医学院は、市の中心地にあり、省の医療の中核としての役割を担っている。呉学長、王院長はじめ各先生方、事務の方々に大変歓待して頂き、院内を見学した。とくに火傷センターには全国から重傷の火傷患者が集められ、集中治療が行われていた。内視鏡検査も電子スコープを使用しており、その技術の高さは予想以上であり驚いた。看護技術の



(写真左より平石助手、尹教授、植林教授、龔先生)

向上のため、競技形式で採点を行う大会も定期的に催されるらしい。X線装置に関しては器械も古く、主な原因は経済事情によるが、日本とはまだ隔たりがあるように感じた。

学会の開催地である鷹潭（いんたん）市は南昌市から車で約4時間、途中には未舗装の凸凹道と車窓からは、蓑笠をつけた人々が牛を使って耕作している長閑な田園風景が楽しめた。再び市街地に入った所が鷹潭市で、人民解放軍第184病院の講堂が会場となった。大会の委員長は江西医学院放射線科教授の尹先生である、会場は約200名程度の放射線科医で満席であった。各地から集合しているらしいが、広大な土地や交通事情を考慮すれば大変なことであり、「講演させて頂く」という神妙な気分になる。植林教授は前日に秘密の特訓をなさつたらしく、中国語で流暢に挨拶され、会場から拍手喝采を浴び、『肺癌の診断と治療について』講演された。私は『新しいMRI用の造影剤について』お話しした。誰もがスライドを食い入るように見つめ、うなずきながら熱心に聞いている姿が印象的であった。講演終了後、中華医学会江西分会から栄誉賞を頂き、身に余る光栄と感じた。フィルムカンファレンスでも白熱した議論が交わされ、

私達が普段目にする事の少ない一種の風土病の症例にあたる機会を得ることができたことも、本学会参加の大きな収穫となった。

街では経済の自由化の途上で、タクシーは個人営業が許可されており、運転手はほんの数時間で平均月収分を手にすることができるという。強盗の標的とされるためか、運転席とは鉄格子で仕切られ、座席の背面まで鉄板でガードするという念の入れようである。しかし、車は概してオンボロで、サイドミラーがなかったり、フロントガラスが割れていたりということもザラであり、シートが汚れているくらいのことは気にならなくなってくるから不思議である。自転車も洪水のように押し寄せるといったイメージは誰しもがあろうが、実際、自転車も凄いが、自動車も人も皆凄い。信号機が整備されていない道路を、人も車も各々が自分勝手に往来する。警笛がそこかしこに鳴り響く。耐えられないほどの雑踏であるが、街のエネルギーが伝わってくる。

中国はこれからの国である。数年後には見違えるほど変化しているに違いない。時代の移行期を我が目で確かめ焼きつけることができたのは、一生涯の思い出となろう。最後に、家族ぐるみで大歓迎下さった龔先生はじめ学会関係者の方々、江西医学院の方々に厚く御礼申し上げます次第である。 謝辞。

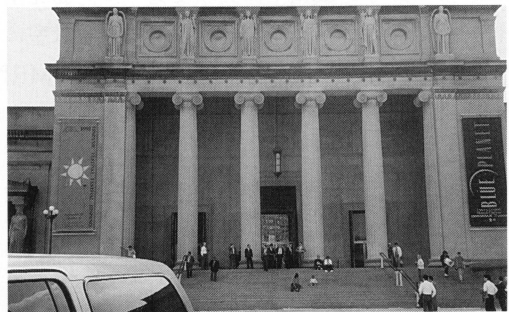
厳しい契約社会の米国

生死感の日米ギャップ

事務局長 辻 倉 忠 男

私立医科大学協会主催の海外研修で米国の医科大学・附属病院などを訪問した時のことである。東京の私立医科大学を卒業後シカゴ市在住15年開業のドクターを夕食に招いて米国の開業事情を聞くことになった。

話題は医療費・健保制度・DRG・医療過誤



(産業博物館)

そしてドクターと病院（オープンシステム病院）及び損害保険会社との契約事情など多岐に亘った。

その二、三を紹介します。

米国の医療費は十数年前から急速に増大し、現在では年間70兆円をこえ、GNPの13~14%にもなり、日本の国家予算を上廻る程になっている。15年前の開業時には政府の健康保険制度の支払いは請求どおり問題なく出来高払いで支払われていたが、近年は支払率が低下、例えばDRGにより800ドルのケアが必要な虫垂炎患者でも650ドルまでのケア通知が保険局より患者に直接通知され、その範囲内しかサービスができない。医師の使命感と矛盾し、癌患者

のケアなど引受けたくなくなる気分におちいたりすることもある。民間の健康保険は掛金の負担が大変のようである（民間保険は年令、家族構成等により保険料が決まるとのことで、このドクターは妻と子2人で月600ドル～700ドルの保険料）。15年間で医療過誤として訴訟が7件、裁判になると殆ど原告に有利な判決となる。陪審制度と弁護士との戦術には、私達の理解をこえるところがある。

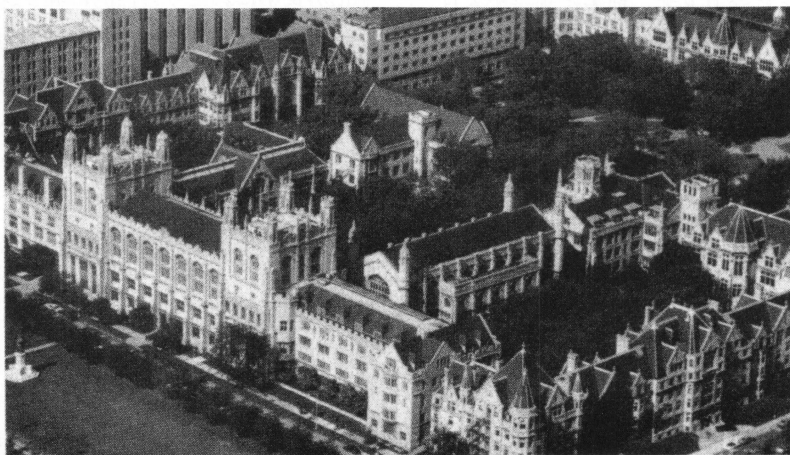
医師と契約する病院側は、医師自身が1件100万ドル、年間300万ドルまでの賠償保険に加入していないと契約しない。保険会社は医療過誤事件をコンピューターに入力し、トラブルが多いと判ると保険料は高額になる。トラブルの多い医師は病院が契約を切り、次の契約先病院さがしは困難なことなど、米国医師は厳しい契約社会の中にある。

シカゴ大学訪問後、昼食は市内の産業博物館のカフェテラスになった。産業博物館といっても周囲に広範な芝生をめぐらし、上野の国立博物館の2倍位ある石造りの壮麗な建物である。この内に医療関係の室があり、人体の標示があるとのことで同館での昼食となった。目的の室へ行くと、人体を真横から鼻筋をとおる線上や、肩甲骨をとおる線上など数面に分けて頭部から

下肢までの縦断部分、手、肢の縦断面、更に頭部、胸部、腹部等の横断部分を固定して数ミリ幅にスライスされたものを硝子板にはさんで展示されている。図解や標本でない実際の人間の身体の皮膚・脂肪・臓器・筋肉・骨格が色感を伴い触感さえ感じる生々しきで識別できる標示で、医師でない私には今でも細部まで眼にうかぶ強い印象を受けた。

遺体に敬意を抱き、時に懼れも感じる吾々からみると、国情が異なるとは思うものの、公共の場に人体をスライスして展示してあるのは、米国人の遺体に対する感覚・宗教感について異なるものを感じ、標示された故人はどんな方であったのだろうかと思ひ、展示の背後から肉声が聞こえないかと眼をこらす俤いをした。

人々は死んで天国へ行く。天国で「貴方は何故遺体を天国まで持ってくるのか。遺体に救いはいらぬ。地上で人々のために役立てるべきではなかったのか」と言われることになるとの考え方があると、後日米国通の教授から教えられた。シカゴ大学附属病院では、1990年で年間110件の肝臓移植が実施されたという。吾が国で近年論議の多い脳死・臓器移植について、彼我には医療上の問題だけでなく、死・生の扱い方に相違があると思われる。



(シカゴ大学キャンパス)

医学の散歩道



目焼けと皮膚

—タイ プーケット島の遊泳風景—

皮膚科学教室教授 清金 公裕

夏になると沖縄・グアム・ハワイなどに行き過度の日焼け（冬の雪焼けも同様）を生じて、若い人達が外来を受診します。また、時に日射病で死亡するという記事が新聞に載ることもあります。日光は人間にとって不可欠なものです。

日焼けは“ヤケド”と同じこと シワ、シミ、老化を促す

しかし、皮膚にとっては必ずしもよいことばかりではなく、反対に害を及ぼします。日焼けは誰もが経験し、よく知っていることですが、短時間でも強い日光に照射されたり、弱くても長時間照射されたりしても生じる正常の皮膚反応で、かつ急性皮膚障害です。皮膚にとってはヤケドと同じことになります。地表に到達する日光は 300nm ※以上の光の連続スペクトルで、その中に紫外線、可視光線、赤外線を含んでいます。そのうち紫外線（UV）は波長の長い方からA（長波長紫外線UVA： $400\sim 320\text{nm}$ ）、B（中波長紫外線UVB： $320\sim 290\text{nm}$ ）、C（短波長紫外線UVC： $290\sim 10\text{nm}$ ）に分けられます。通常、UVCはオゾン層で吸収されて地表には到達しませんが、近年、フロンガスなどによりオゾン層が破壊され、地表に到達する紫外線量が増加していると言われています。正常人の皮膚に大量の日光が照射されるとサンバーンという紅斑（炎症）反応とサンタンと言う色素沈着

反応（皮膚のメラニン色素が酸化されて皮膚が黒化する：一次黒化）を生じます。この2つの反応を含めて日焼け（日光皮膚炎）と言っていますが、狭義にはサンバーンをさします。狭義の日焼けを起こすのはUVBです。サンタンはUVAにより生じます。なお、UVAは窓ガラスを通過するため外に出なくてもサンタンは生じます。さらに、医薬品を含めた各種薬剤、化粧品、香料、食料品などにより生じる光線過敏症（病的な皮膚反応）の発症にUVAは深く関わっています。

日焼けによる皮膚炎は日がたてば回復するとはいえ、表皮細胞は破壊され、真皮のコラーゲンなどに変性をもたらしています。これらの変化が長年にわたり慢性的に繰り返されていると、皮膚は乾燥し、粗造となり、弾力性を失い、シワ、シミが現れ、皮膚の老化を促進し、さらに高齢期に皮膚悪性腫瘍の発生をみる場合があります。紫外線の強さは3月頃より急速に増加して6月の夏至頃にピークとなり7～8月と続きますが、日差しの強い日や時間帯（午前10時～

お詫びと訂正

前回発行の第20号に一部誤りがありましたので、ここにお詫びし、訂正いたします。

P30 医学の散歩道の中のタイトル

「睡眠と薬」を「睡眠と夢」に

午後2時頃)には外出を避け、外出時には帽子・傘などを使用したり、サンスクリーンやカバーマークなどを塗って日光から皮膚を守ることが必要です。

※ 波長を表わす単位でナノメートル (10^{-7} cm)

主要会議とその主な議題

(H.6.5.11~7.16)

平成6年5月11日より平成6年7月16日までの主要な会議とその主な議題は次のとおりです。

理事会

(5月28日)

1. 平成5年度決算承認の件
2. 評議員選出に関する件

(5月31日)

1. 評議員選任の件

(6月16日)

1. 学納金に関する件

(6月30日)

1. 学校法人大阪医科大学臨時評議員会の議事提案について

(7月12日)

1. 大阪医科大学附属看護専門学校学則中一部改正の件
2. 学納金に関する件

評議員会

(5月31日)

1. 平成5年度決算報告の件
2. 評議員選出に関する件

(6月30日)

1. 理事一部選任の件

教授会

(5月11日)

1. 人事に関する件(客員教授の委嘱及び講師任用他)
2. 骨髄移植準備に関する件
3. 機器共同利用センター長選出に関する件
4. その他
 - (1) 入試制度審議会委員長の委嘱について

- (2) 平成7年度入試に関する委員会委員長の委嘱について
- (3) 倫理委員会委員長及び副委員長並びに学識経験者委員の委嘱について
- (4) 治験審査委員会委員の変更について

(5月25日)

1. 人事に関する件(講師の任用他)
2. 学生の休学願出に関する件
3. その他
 - (1) 物理学担当教授選考の諸問題に関する検討会の答申について
 - (2) 機器共同利用センター副センター長の委嘱について

(6月8日)

1. 人事に関する件(非常勤講師の任用他)
2. 平成7年度入試に関する件
3. 平成6年度日本育英会奨学生(第2学年以上)及び小野奨学生の推薦に関する件
4. その他
 - (1) 物理学担当教授の選考について

(6月22日)

1. 人事に関する件(学内講師の任用他)
2. 教授選考に関する件(物理学担当)
3. 平成6年度奨学生(日本育英会・本学・仁泉会安田記念医学)の推薦に関する件
4. その他
 - (1) 教室臨時主管教授の委嘱について
 - (2) 大阪医科大学図書館利用内規(案)について

(7月6日)

1. 人事に関する件(非常勤講師の任用他)
2. 教授選考に関する件(物理学、麻酔科学講座)
3. 平成7年度入学試験に関する件
4. 本学図書館利用内規(案)に関する件

大学院医学研究科委員会

(5月11日)

1. 大学院生の学外研修期間延長願出に関する件

- る件
- (5月25日)
1. 平成6年度日本育英会奨学生の推薦に関する件
 2. 研究生の願出に関する件
- (6月8日)
1. 学位論文受理に関する件
- (6月22日)
1. 学位審査の臨時主査の委嘱に関する件
 2. 平成6年度私立大学等経常費補助金特別補助(高度化推進特別経費)に係る計画調書の申請に関する件
- (7月6日)
1. 学位論文提出のための語学試験の結果に関する件
 2. その他
- 1) 平成6年度日本育英会大学院奨学生の追加推薦について

- 27日(水) 学位記授与式
- 8月9日(火) 理事会
- 22日(月) 第6学年第2学期臨床実習開始
- 29日(月) 第4学年第2学期授業開始
- 9月1日(木) 本部・図書館棟竣工式及び除幕式
看護専門学校授業開始
- 5日(月) 図書館開館
第3・第5学年第2学期授業開始
- 7日(水) 教授会、大学院医学研究科委員会
- 12日(月) 第1・2学年第2学期授業開始
- 14日(水) 学位論文受付締切
- 21日(水) 教授会、大学院医学研究科委員会
- 10月4日(火) 看護専門学校第1看護学科第3年生研修旅行(10月6日まで)
- 8日(土) 大学祭(10月10日まで)
- 15日(土) 解剖慰霊祭
第6学年後期試験開始(7年1月上旬まで)
看護専門学校戴帽式
- 17日(月) 第6学年臨床実習終了
- 19日(水) 教授会、大学院医学研究科委員会

主な行事日程表

(7月9日~10月31日)

7月9日から10月31日までの学内における主な行事日程は次のとおりです。

- 7月9日(土) 第6学年第1学期臨床実習終了
- 11日(月) 第3~第5学年第1学期授業終了
- 12日(火) 理事会
- 14日(水) 進学課程期末試験終了(7月4日から)
- 20日(水) 教授会、大学院医学研究科委員会
第1・2学年第1学期授業終了
看護専門学校授業終了
- 21日(木) 医学部夏期休業(9月10日まで)
看護専門学校夏期休業(8月31日まで)
- 22日(金) 平成6年度第46回西日本医科学学生総合体育大会(8月8日まで)

生前献体者への感謝状 伝達式・ご遺骨返納式

生前献体者に対する文部大臣からの感謝状の伝達式が、6月29日(水)午後1時より第一会議室において、また、これに引き続きご遺骨返納式が午後2時より臨床第一講堂において、ご遺族の方々をお迎えし、本学から学長、学生部長、解剖学教室関係者及び学部学生の参列のもと執り行われました。

附・属・病・院

「看護の日」記念行事

＝ふれあい看護体験＝

看護副部長（教育担当）

神谷 美佐子

平成6年度看護の日記念行事の一貫としてふれあい看護体験が去る5月11日に実施され、当看護部に於いても11名の体験者を受け入れました。

今年度の特徴は対象者が広範囲で、看護学校進学希望者の高校生から、家族の病気を通して医療、看護へ関心を深められた主婦等多岐に渡っていました。参加動機も明確であり、真剣に看護体験に取り組みていました。ここに体験者の感想を一部紹介します。

看護婦さんの言葉に感銘

以前からボランティアに興味があり、自分にも何かできる事はないかと考え、父が脳神経外科でお世話になったこの病院で、いつもとは逆の立場から医療の現場をみつめたいと思い参加しました。私は産科病棟へ行かせて頂きました。看護婦さんの「自分自身が健康でなければ、この仕事はできない」と言われた言葉はとても印象に残りました。普段健康の有難さを忘れがちになって暮らしていますが、目を覚まされた様な気がします。何かをしてもらう立場にばかりいるのではなく、何かできることをしてあげる奉仕の精神を学びました。どんな仕事でも大切ですが、本当に医療の仕事は、人の命を預かる仕事。私もできるだけリラックスする様心がけていましたが、終わった後はやはりホッと肩の力が抜けました。とても緊張していたのだと思います。

28才 会社員



真心の大切さを痛感

父が昨年医大にお世話になり、その時看護婦さんたちに大変親切にお世話して頂き、大変なお仕事だということがわかり、自分自身も体で体験してみたいと思い参加しました。

私は脳神経外科病棟で体験させて頂きました。体拭き。おむつ交換、車椅子のお世話、患者さんとの対話等色々ありましたが、常に笑顔を決やらず、優しい言葉で元気に接している看護婦さんには、ものすごく大変という事と頭が下がる思いでした。この病棟では、脳を刺激しないと寝たきりになるので、寝ておられる患者さんを看護婦さんと一緒に手をつないで散歩しました。起こすことによって見る見る顔の表情がなごみ、生き生きしているのがわかり、私迄嬉しくなりました。本当に看護というものは真心が大切なのだと改めて感心しました。また、このような機会があれば体験してみたいと思います。

49才 主婦

以上2名の感想を紹介致しました。短時間ではありましたが、参加者全員が健康の有難さについて実感され、今の私にできることは何かと考えを深められた様です。又、このような機会を通して、看護の役割を理解して頂き、地域の方々へと広げることができればと思います。

平成6年度附属病院臨床研修医

(82名……学内53名、学外29名)

平成6年5月1日現在の各科の臨床研修医数は以下のとおりです。尚、昨年度は73名。

第 1 内 科11：眼 科10
第 2 内 科10：耳 鼻 咽 喉 科2
第 3 内 科4：皮 膚 科5
精神・神経科2：泌 尿 器 科0
一般・消化器外科5：放 射 線 科3
胸 部 外 科4：麻 醉 科2
脳 神 經 外 科5：歯科・口 腔 外 科7
整 形 外 科8：中 央 検 査 部0
小 児 科1：形 成 外 科1
産 婦 人 科2

院内消防防火設備説明会

今年度の消防訓練計画に基づき防災訓練の一貫として、附属病院に設置されている消防防火設備全般についての説明会が下記のとおり実施されました。

日時	場所	対象職場	開催場所
6月21日(火) 13:30~14:30	1・2・3号館 外来・サブライ		管理棟会議室 (管理棟3階)
6月25日(土) 10:00~11:00	手術室・ICU		手術室
6月29日(水) 13:30~14:30	5・6号館 保育室		管理棟会議室 (管理棟3階)

計 報

麻酔科学兵頭正義教授ご逝去

麻酔科学兵頭正義教授は病気ご療養中のところ、去る6月14日(火)午前7時8分ご逝去されました。

享年67才でした。

先生は、昭和38年5月本学に着任され、同39年4月から教授として麻酔学講座を開講され、本学の発展・充実に寄与されました。

先生のご遺徳、ご功績を偲びご冥福をお祈りいたします。

叙 勲

従五位勲三等瑞宝章(平成6年6月14日)

故 教 授 兵 頭 正 義 殿

病態検査学稲井眞弥前教授ご逝去

病態検査学稲井眞弥前教授は病気ご療養中のところ、去る6月29日(水)ご逝去されました。享年70才でした。

先生は、昭和54年7月本学に新設の病態検査学講座教授として就任され、平成4年3月定年退職までの間、本学の発展・充実に寄与されました。

先生のご遺徳、ご功績を偲びご冥福をお祈りいたします。

大阪医科大学俳句会

制服の新兵ばかり蝌蚪の国

塚本 務人

うららかや石をまくらに松の寝る

今井 雄介

青嵐小使小僧落ちつけず

古川 洋子

横たはる父乗り越えて立夏なり

藤澤 良行

粽買ふ地藏にひとつ子にひとつ

中川 一成

夜更けまで殿様ごっこ夏座敷

梶野香代子

世捨てれば世に捨てらるる古茶新茶

奥田 筆子



(前号訂正 務人句の「不孝」は「不幸」が正)



ご存じですか? 「かるがも」

皇居のお濠でフォーカスされて以来、すっかり有名になった“かるがも”が、毎年6月ごろ、本学役員室横の小庭園に姿を見せる。ここにご紹介した写真が、そのかるがも親子である。最初は12羽の子がもが可愛い仕草を見せていたが、残念なことに、次々に猫等に襲われて、見る間にいなくなってしまう。何とか守ってやる方法はないのかな。全国各地ではどんな様子なのかなと毎度胸を痛める。

大阪医科大学学報 第21号	
発行年月日	平成6年7月16日
発行	学校法人 大阪医科大学
発行責任者	事務局長 辻 倉 忠 男
編集・発行	総務部 庶務課